ひょうごJCC

78

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

2013. 3. 22

兵庫JCCは、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）等の兵庫県内の協同組合運動相互の連絡提携、共通課題の実行及び全国、海外の協同組合運動との連携をはかることを目的に、1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らしよい兵庫をめざして－協同が息づくまちづくり－」を『基本理念』として、協同組合の「共通行動目標」の実践に取り組んでいます。

Contents

1. 協同組合活動スナップ …… 1
2. 「国際協同組合同盟（ICA）アジア太平洋地域総会」を神戸で開催 …… 2
3. 2012国際協同組合年を振りかえって …… 3
4. 2012年度兵庫JCC協同組合研究・交流会を開催 … 4
5. 兵庫JCC創立30周年記念事業 …… 5
6. 今協同組合では－各協同組合からの報告－
   - 生協／ＪＡ（農協） …… 6
   - ＪＦ（漁協）／JForest（森林組合） …… 7
7. 協同組合運動に生きる
   「これからの森づくり、人づくり、緑の大切さを考える」
   北はりま森林組合 常務理事　橋詰 雅博 …… 8

協同組合活動スナップ

兵庫県生協大会を開催

△ 生協

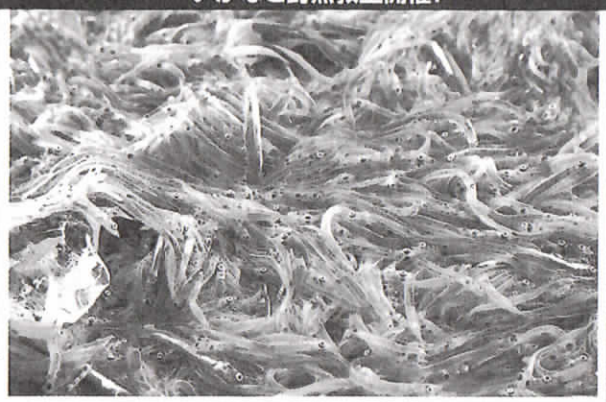
毎年10月は「生協強化月間」。10月9日に開催された「兵庫県生協大会」に、会員生協の組合員、役職員など316人が集い、生協功労者表彰や環境、エネルギー問題についての講演、健康チェックなどが行われました。

「もうかる営農プラン」の総仕上げと「地域農業元気プラン」によるさらなる前進を！

△ JA（農協）

2月22日、JA営農指導員研修大会が開催され、営農指導員が日頃の活動実績を発表しました。JAたじまの吉田修久さんが最優秀賞に選ばれました。

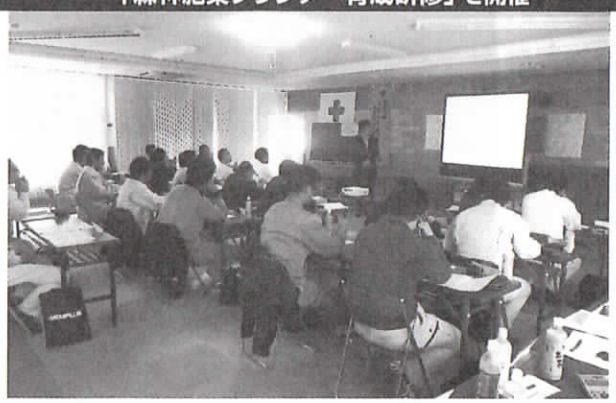
いかなご釘煮教室開催！



△ JF（漁協）

ひょうごの春告魚、いかなごが2月23日に解禁となり、兵庫のおさかなファンクラブ「シートクラブ」中心に、いかなご釘煮教室を連日開催しました。

「森林施業プランナー育成研修」を開催



△ JForest（森林組合）

12月11～13日に、北但西部森林組合にて後期研修が行われました。

●編集発行
兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫ＪＣＣ）
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives
生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）

●兵庫JCC事務局
兵庫県生活協同組合連合会　TEL (078)391－8634
兵庫県農業協同組合中央会　TEL (078)333－5896
兵庫県漁業協同組合連合会　TEL (078)940－8013
兵庫県森林組合連合会　TEL (078)341－5082

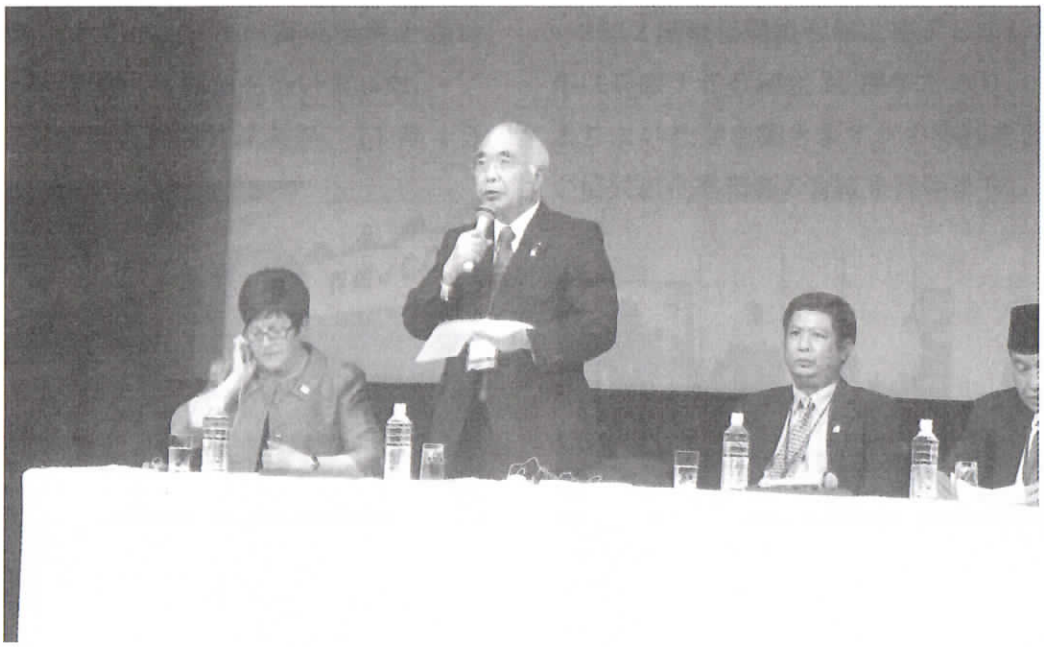
「国際協同組合同盟（ICA）アジア太平洋地域総会」を神戸で開催

国際協同組合同盟（ＩＣＡ）のアジア太平洋地域総会が、2012年11月26日から30日に、日本で初めて開催され、18カ国の協同組合から280人が参加しました。また、11月28日には地域総会の開会式ならび第7回協同組合フォーラムが行われ、国内外から約500人が参加しました。

開会式では、ホスト国を代表して、日本協同組合連絡協議会の萬歳章委員長（ＪＡ全中会長）、主催者としてリ・チュンセンＩＣＡアジア太平洋地域会長が歓迎のあいさつを行った後、ポーリン・グリーンＩＣＡ会長、来賓のサラサール・シリナチス国際労働機関（ＩＬＯ）雇用総局長、齊藤勁内閣官房副長官、井戸敏三兵庫県知事、矢田立郎神戸市長にごあいさついただきました。

阪神・淡路大震災の被災地である神戸での開催であることを踏まえ、協同組合フォーラムでは、「災害時における協同組合の役割」をテーマに、各国からの報告やパネルディスカッションが行われました。日頃の共助の取り組みが東日本大震災やさまざまな災害時の迅速な支援活動に生かされたことなど、活発な意見交換が行われ、協同組合と各国政府・国連とのパートナーシップの構築が呼び掛けられました。

地域総会では、ＩＣＡより国際協同組合年の成果とそれを受けた2020年までの活動計画である「協同組合の10年」が報告され、それに基づくアジア太平洋地域の2013年からの2016年事業計画が承認されました。



協同組合の災害支援の重要性を訴える日本協同組合連絡協議会 萬歳章委員長

2012年度
兵庫JCC協同組合研究・交流会を開催

～おさかなのまち明石で 見て・知って・食べて魚について考えよう～

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫ＪＣＣ）は3月9日、兵庫県水産会館（明石市）で「2012年度　兵庫ＪＣＣ協同組合研究・交流会」を開催しました。

この研究・交流会は、より多くの生産者と消費者が直接意見交換をすることで、お互いを理解し合い、生産活動および消費行動に活かすことを目的としています。2011年度の森林組合に引き続いて、本年度はＪＦ兵庫漁連での開催となり、生協・ＪＡ・ＪＦ・森林組合の組合員、役職員約60人が参加しました。

ＪＦ兵庫漁連の山口徹夫専務理事の「いかなごは兵庫県民にとって身近な食材ですが、今日はそのいかなごを通じ、生産者・消費者がその思いを学べるよい機会としたい。明石海峡が存分に見渡せる調理室で、思う存分魚に親しんで帰ってください」とのあいさつの後、参加者は「ひょうごのお魚ファンクラブ」シートクラブの料理教室を体験し、旬のいかなごの釘煮といかなごのハンバーグ、自ら殻むきをしたカキを使った酢がき、明石だこサラダなどを、講習を受けつつ調理しました。

いかなご釘煮の調理では、普段釘煮を炊かない方もみなさんピンと形よく炊くことができました。併せて、

殻むきの説明を熱心に聞く参加者

旬の味が詰まった料理！

いかなごのハンバーグも調理することで、釘煮以外の調理法も学んでいただきました。また、大きく育った新鮮な播磨灘産カキの殻むき体験では、大きい殻と格闘しつつ楽しんで調理をしていただきました。お楽しみの昼食は、出来上がった釘煮を炊きたての白ご飯に乗せ、旬の味を楽しんでいただきました。

昼食を終え、午後からは、ＪＦ明石浦の戎本裕明代表理事組合長より『「いかなご」から考える私たちのくらしと瀬戸内海の環境』と題して、いかなご漁を通じて兵庫の漁業の漁獲高の現状や瀬戸内海の現状の説明を交えながら、消費者に考えて欲しいことや地域に広めて欲しいことなどを講演いただきました。

生産者と消費者の意見交換会では、「豊かな海の大切さがわかった」「漁業者の海への役割を認識した」「シートクラブに参加し、魚料理をもっと身に付けたい」などの意見が聞かれ、体験交流を通じて漁業・海・魚への理解を深めました。

白熱した議論が交わされた意見交換会

兵庫ＪＣＣ創立30周年記念事業

1．兵庫ＪＣＣ創立30周年記念事業の目的

現在、全世界にわたり人々が金融および経済危機、さらには環境・エネルギー、食糧、貧困、平和などさまざまな課題に直面して苦闘しており、先進国や発展途上国のいずれにおいても一般市民はよりよい生活を築くための必要な機会を求めています。

このような困難な状況を打開するため、国連は2009年12月に協同組合が人々の連帯を通じてその解決に向けて最も大きな力を引き出すことを期待して2012年を国際協同組合年と決議しました。

そこで、兵庫ＪＣＣは創立30周年記念事業の目的を国際協同組合年のスローガンである、「協同組合がよりよい社会を築きます」の実践を通じた次世代の協同組合運動者の育成とします。

2．企画骨子

企　画　名	内　　容	規　模	期　間
協同組合の源流研修	日本の協同組合の源流である、大原幽学による先祖株組合、二宮尊徳による報徳社、賀川豊彦に関する松沢記念館を視察し、“協同”の心を学ぶ。	**約15人**	**2013年のみ**
各協同組合の地域貢献活動を学ぶ	兵庫ＪＣＣ４団体の次世代を担う職員が集い、各協同組合の事業と活動の実践報告とグループワーク、交流を通じて４団体若手職員の顔の見える関係づくり。	**約30人**	**2013年から継続**
PHD運動への協力	兵庫ＪＣＣとして、(公財)ＰＨＤ協会によるＰＨＤ運動への協力を行う。 ①各協同組合でＰＨＤ運動を紹介 ②ＰＨＤ会員としての協力 会費年額１口５千円(任意口数) ③研修生の受け入れ		**2013年から継続**
兵庫県版「森は海の恋人」運動	2007年秋からＪＦ兵庫漁連とコープこうべの間で始まった間伐による里山づくり活動に、兵庫ＪＣＣとして参加の輪を広げる。	**約50人**	**2013年から継続**
兵庫県記念大会を30周年記念大会として実施	第91回国際協同組合デー　兵庫県記念大会を、兵庫ＪＣＣ創立30周年の冠大会として実施する。 オープニングセレモニー: ＮＰＯメダカのコタロー劇団 講演：親子をつなぐ学びのスペース リレイト 代表　中桐 万里子 氏	**約350人**	**2013年のみ**

今 協同組合では ―各協同組合からの報告

生協から

「新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催

１月５日、兵庫県民会館において今回で８回目の開催となる「新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催。新春トップセミナーでは、兵庫県から健康福祉部の山本嘉彦福祉監をはじめ４人の方々をお迎えし、会員生協・団体の理事長・理事・監事など、のべ58人の参加をいただき、新年の決意を新たにする機会となりました。

厚生労働省介護保険指導室の千田透室長を講師に迎え「孤立を生まない地域・わがまちをめざして」と題してご講演いただきました。「孤立を生まない地域をめざすため、行政と連携しながら、地域住民が支えあう互助共助の仕組みを再構築することが生協の存在意義を明確にする」と話され、会場ではメモを取りながら熱心に聞き入る参加者の姿が見られました。

ご講演をされる厚生労働省の千田透室長

引き続き、開催された賀詞交換会では、ご来賓を代表して井戸敏三兵庫県知事から「協同組合こそが、これからの組織の在り方をモデル化していると考えます。それぞれの役割を果たすという日々の活動が、新しいモデルを提案していくことになる」とごあいさついただきました。また引き続き、井戸知事の乾杯のご発声では今年の活動への期待のエールとして新春にふさわしい和歌をお詠みになり、賑やかに会がスタート。日頃からお世話になっている行政の皆様と会員生協・団体の皆様、それぞれに賀詞交換を通じて活発な交流を行い、年頭を飾るにふさわしい賀詞交換会となりました。

賀詞交換会にてごあいさつをされる
井戸敏三兵庫県知事

JA(農協)から

多様な関係者の協同による都市農業振興の実現を/都市農業シンポジウムin兵庫を開催

ＪＡ全中とＪＡ兵庫中央会は、２月20日、「都市農業シンポジウムin兵庫」を県農業会館で開いた。都市農業の振興、都市農地の保全に向け、実践報告やパネルディスカッションを通し、都市農家やＪＡが取り組むべき活動について情報交換を行った。ＪＡグループ役職員、自治体・農業委員会役職員、都市農業者ら約150人が参加。

実践事例として、農業後継者組織のＪＡ兵庫六甲ＡＳＣの島中佳紀顧問が、農地と消費地が近い利点を生かした農業経営や食育活動を発表。「栽培から食べるまでを体験してもらうことが重要。取引先の料理人に声をかけ、協力してもらうことで、子どもたちの感想も違ってくる」と紹介した。

ＪＡ兵庫南の中村良祐代表理事専務は、ＪＡあかし、ＪＡ加古川南と進めている都市農業振興のための取り組みを報告した。「都市農業を支援するため、地域住民への都市農業の多面的機能の広報や、日頃から行政と協議して農業への理解を得ることが必要である」と話した。

パネルディスカッションでは、農林水産省などが都市農地の位置付けを検討し始めたことを受け「都市農地を守る法律の制定を求めたい」という意見が出た。

パネルディスカッションで意見を交わす
ＪＣ総研の星勉主席研究員（左）ら

JF(漁協)から

ひょうごのお魚ファンクラブ SEAT CLUB http://www.seat-sakana.net

～兵庫のおいしい冬を味わう！シートクラブで旬を楽しむ料理教室を開催～

おさかな料理をメインに料理教室を開催している、ＪＦ兵庫漁連のひょうごのおさかなファンクラブ「ＳＥＡＴ-ＣＬＵＢ（シートクラブ）」では、１月22日、２月７日に、それぞれカキとズワイガニの旬を楽しむ教室を開催しました。

カキ教室では、赤穂漁協の生産者を講師に招き、カキの生産から出荷まで、また生産の裏話を交えて講演いただきました。兵庫産のカキは豊かな海に育まれ１年で出荷サイズに成長し、フレッシュですっきりした味わいが特徴です。参加者は、旬を迎えて大きく成長したカキの殻むきを体験し、自らむいたカキを焼きがき、酢がきなどに調理し味わいました。

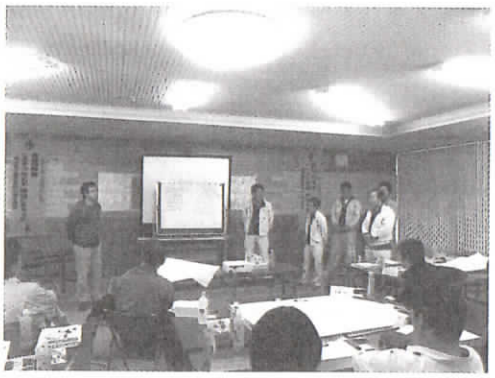
２月に開催したズワイガニ教室では、兵庫が水揚げ量日本一を誇るズワイガニを使用。この時期とれる脱皮したてのズワイガニは、若松葉やソフトズワイガニと呼ばれ、殻がやわらかくとても食べやすいこと、お手頃価格で手に入る魅力があります。

参加者は、但馬漁協職員よりズワイガニの生産や資源保護活動などの取り組み、調理法について学んだ後、１人１杯のカニを調理し、焼きガニ・蒸しガニ・カニ刺しなどに調理し味わいました。

シートクラブでは、このような旬の会や魚のさばき方教室をはじめ、兵庫のおさかなファンが増えるように、これからも活動していきます。旬の会は、４月２日（火）にハタハタ・バイ貝の会、４月15日（月）にアサリの会を予定していますので、皆さんのご参加をお待ちしています。

JForest(森林組合)から

「森林施業プランナー育成研修」を開催



平成24年度森林林業緊急整備事業において「森林施業プランナー育成研修」を開催しました。

前期研修は、11月12～14日に北はりま森林組合で開催、後期研修は12月11～13日に北但西部森林組合で開催し、８事業体15人が参加されました。

前期研修では、（株）フォレストミッションの湯浅伸一氏から提案型集約化施業の意義、元森林総研の藤森隆郎氏から目標林型と選木実習、北はりま森林組合の藤田プランナーから森林施業プランの作り方等を学びました。

後期研修では、湯浅氏から年間事業量の計算、京都大学の長谷川尚史准教授から作業システムと道づくり、北但西部森林組合の徳山プランナーからコスト分析方法等について学びました。

最終日にはグループワークや個人ワークを通じて受講生ごとに研修後のアクションプランを設定していただき、最後に修了証を授与して閉講となりました。

協同組合運動に生きる

これからの森づくり、人づくり、緑の大切さを考える

北はりま森林組合　常務理事　橋詰 雅博

『林業』と言えば、交わす言葉は『あかんなぁー』『儲からんわー』といったあいさつが最近では定着してしまいました。

何十年と愛着を持って育ててきた山の立木を売り払っても持ち主に“お金が残らない”となると林業は見放されて当然です。

林業の再生には、木材需要の拡大と若い労力で活性化を図っていく必要があります。

木造建築の推進、公共施設や一般家庭への木造木質化、さらには近年脚光を浴びている木質バイオマス事業等、木材の利用拡大策は必要不可欠と言えます。

一方、労力の活性化には、若い森林技術者の育成が必要でもあります。毎日机の上でコンピューターとにらめっこ、都会のストレス社会に飽きたらず空気のきれいな自然との生活、“林業”にあこがれを抱き一時期各地では多くの人が“山の仕事”に職を求めました。結果、林業のしんどさ、つらさといったことが次第に一般社会に浸透、あこがれだけでは通用しないこともわかり、近年ようやく本気、やる気のある方達が頑張っている状況でもあります。

昔の林業は「きつい」「汚い」「危険」の３Ｋの代名詞のように言われていましたが近年では機械化も進み操作一つで伐木造材が出来るようになりました。若い女性の林業労働者も数多く就業しており以前とは状況が大きく変わってきています。

そのようななか、近年、施業プランナー制度やフォレスター制度が相次いで制度化されそれぞれに資格を得た作業員が誕生しています。この制度は本人にやる気を起こさすとともに林業の活性化と技術向上にさらに役立つものと思えます。

只、前述のように林業界の経営環境は昨今非常に厳しいものがあります。現状を認識しつつ、現場労働者の雇用環境の改善、福利厚生の充実がそれを支える人づくりであり、組合に与えられた森林づくりでもあるのではないかと思っております。

少し余談になりますが、以前仲の良いお医者さんからこんな話を聞いたことがあります。患者に薬を与え、毎日の養生や厳守事項を指示します。ところが患者は医者の受診だけ済まし、指示どおりの生活が守れていない。挙げ句の果てはあの医者はヤブ医者だ・・・と。診断に間違いがなく、医者の指示に従えば患者本人の努力次第で病気は治る。初期の場合は回復できるのが大半なのだと・・・。

そして話を続けられました。間伐すれば良い木が育ち、肥料をやれば太い幹、枝打すれば無節の良材、木は手入れをすればするほど思ったとおりに育ってくれる。患者さんは指示どおりの生活がなかなか守れない。その点、山の自然は本当に素直です。間伐等、山の手入れはよろしく頼みますよ。山は私のストレス解消の場なんですよ。と・・・ 都会からふるさとに帰られた時、澄んだ空気と手入れの行き届いた美しい山々を眺めるのが一番の楽しみ、そして落ち着くのですとのことでした。

近年、地球温暖化の影響から集中豪雨による水害が各地で多発しています。水害から山林を守るには森を健全に育てる間伐をすることや里山整備をすることで土と水を保つ力が森に復活します。同時に海の生き物に養分を供給する力もよみがえってきます。結果、整備された山林は地域経済に多くの潤いをもたらしてくれます。

これら森林組合活動は農業、漁業、林業すべてに連動しており、本協議会の連携活動の交流の輪がさらに広がることを期待しております。